

都小っ子だよ

やる気！ 元気！ 本気！

(挑戦意欲) (体力・気力) (真剣な気持ち)

西都市立都於郡小学校 第7号 令和2年9月15日

小中合同運動会無事終了

9月13日(日)の小中合同運動会は、小中学生の頑張りと保護者の皆様方のご協力により、無事終了することができました。子どもたちは、徒走やダンス、リレーなど本当によく頑張ってくれました。



本年度の競技優勝及び演舞賞とも

に『白団』でした。結果として、白団が2年連続のダブル優勝ということになりました。しかし、どちらの団も小中学校の児童生徒が気持ちを一つにして、応援リーダーを中心に、本当によく盛り上がり、頑張っている姿が見られました。この『やる気・元気・本気』が発揮された運動会のエネルギーをこれからの学校生活に生かしていただきたいと思います。



先日、妻と外食をしていたときに、近くの席に家族4人が座っていました。両親と小学生低学年くらいの子どもと中学生くらいです。何気なく目を向けると、両親と中学生はスマートフォンを見つめ、しきりに手を動かしていました。その後、再び目を向けると、その3人はスマートフォンを片手に食事をしていました。小学生の子どもは、静かに食事をしていました……

「ママのスマートフォンになりたい」

※以下の内容は、昨年度の5月号に掲載したものです。

シンガポールの小学生が書いた「自分の願い」についての作文を、たまたま母親が目に入ります。そこにはこう書いてありました。

ぼくの願いはスマートフォンになることだ。ママとパパはスマートフォンが大好きだ。ママとパパはいつもスマートフォンの事ばかり気にして、僕のことを気にしてくれない。パパは疲れて帰ってきてても、スマートフォンのための時間はあるけど僕のための時間はない。ママとパパは、大切な仕事をしている時でも電話が鳴ったら、すぐに電話を取る。ぼくが泣いていても、気にかけてはくれないけど……。ママとパパは、ぼくとではなく、スマートフォンで遊ぶ。ママもパパも、電話で話しているときは、ぼくが大切なことを伝えようとしても決して話を聞いてはくれない。だから、ぼくの願いはスマートフォンになることだ。

子どもにとって一番身近で自分を大事にしてくれるはずの親が、自分に関心を向けてないということは、「自分は価値がなく、親から愛されるに値しない存在だ」という理解になって心に刻まれていきます。

子どもと向き合って、子どもの目を見て会話を交わし、子どもと触れ合って、お互いの心と体の温度を感じることを大切にしたいものです。 **子どもが先、スマホは後！**

評価

ご存じのとおり、我々人間は生まれたときから常に周囲から評価されています。特に、子どものうちは、学校教育の中で評価を受け続けています。学校での評価は、基本的に「学習面」と「生活面」で評価します。日常の学習への取組状況や達成状況、言動の様子、交友関係、規範意識など、テストの結果や児童観察によって客観的な評価を行っていきます。したがって、ある現象面だけを捉えて、「あの子は、○○○な面が強い。」などといった軽々しい評価は行いません。継続した評価の積み重ねによって、慎重に評価していくのです。また、評価結果は、子どもの成長や学びの状況によって、常に変化し続けるものです。先入観をもって、決めつけられた評価をされることほど悲しいものはありません。これは、教師や学校に対する評価も同じことが言えます。

人が人を評価するというのは、簡単のように見えて、実は非常に難しいことなのです。誤った評価や偏った評価は、評価された側をひどく傷つけることがあります。それだけに、子どもの可能性を拓く評価が重要です。それが都於郡小学校の評価のあり方です。



10月の主な行事		11月の主な行事	
8日(木)	1・2年生参観日	18日(水)	Super Wednesday(給食後下校)
9日(金)	3～6年生・山田分校参観日	26日(木)～27日(金)	修学旅行1日目
15日(木)	就学時健康診断(於：三納小)		修学旅行2日目
16日(金)	秋の遠足(1～5年生)		
28日(水)	Super Wednesday(給食後下校)		

インターネットの記事から次のようなものを見つけました。参考程度に、ちょっとやってみませんか？

【診断】あなたのスマホ依存度チェック！ 何個当てはまる？
チェックスタート！

- 寝るとき、必ずスマホを枕元に置いて寝る。
- 食事中でもスマホを見るのが習慣になっている。
- トイレに行くとき、必ずスマホを持って行く。
- 入浴の際、脱衣所に必ずスマホを置いている。または、入浴時にもスマホを持って入浴する。
- 車を運転する際、バックの中からスマホを取り出し、必ず身近にスマホを置いている。
- 人と話しているときも、スマホを扱うことが多い。
- スマホが身近に無いと、とても不安になる。
- 近くにいる人のスマホの着信音やバイブが鳴った際、つい自分のスマホかと思わずぐにスマホを見てしまう。
- スマホを使って SNS を毎日必ずチェックしている。
- 歩行しているときも、スマホを持ち歩きスマホをチェックしている。

いくつ当てはまったでしょうか？ 結果は…

当てはまった数が「1～2個」の人
依存レベル⇒スマホ依存予備軍！

スマホへの依存が始まっています。大切なものを見逃してしまわないように、目の前や周りの人とのコミュニケーションをとるようにしましょう。小さな画面の世界だけではなく、少し散歩をしたり料理をしたり美味しい食べ物を食べたり、日常の世界で小さな喜びを見つけて周りの人と共感できるといいですね。

当てはまった数が「3～4個」の人
依存レベル⇒軽

少しスマホに依存していますね。スマホだけではなく周りの人とコミュニケーションをとっていくことを心がけましょう。スマホは素晴らしいツールですが、まずは目の前にいるご家族やご友人を大切に。あなたがスマホに夢中になっている間に相手の心とすれ違ってしまっは、せっかくのスマホも有害なツールとなってしまいます。

当てはまった数が「5～7個」の人
依存レベル⇒中

自分は依存していないと思っていたのではないのでしょうか。スマホへの依存は視力の低下や肩こりや首の痛みなどの身体の不調を引き起こします。他にもスマホばかり触っているあなたに対して周りの人が離れて行ってしまいうこともあるかもしれません。少しずつ、1日30分からスマホから離れてみましょう。おいしい食事を味わうことやいつも歩く道で新しい発見をするなど、生活を楽しむことができるようになるといいですね。

当てはまった数が「8個以上」の人
依存レベル⇒重症

スマホがないと死んでしまう…感覚としてはそんな感じでしょうか。視力の低下、肩こりや首の痛みなどの身体の不調にすでに気づかないようになっているのかもしれない。また、人と話すのさえ億劫になってしまうことあるのではないのでしょうか。一人ではスマホから離れることができない、という場合は専門機関を頼るようにしましょう。

思っていたよりも重症な結果が出てしまった方も多いのではないのでしょうか。それほどまでにスマホは我々の生活に浸透しているのですね…。質問にあった項目に気をつけて、少しずつスマホ以外のものも大切にしたい生活を送れるよう心がけてみるのもいいかもしれませんね。